

新 生

令和五年九月 十日印刷
令和五年九月 二十日発行



東北新生園入所者自治会

新生第七十五巻 第三号

新 生

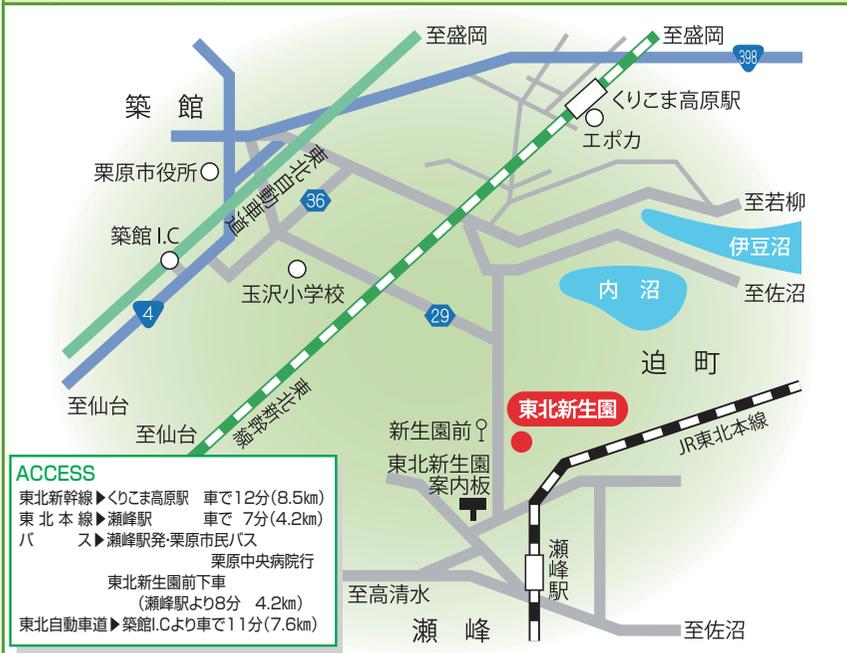
令和五年九月 十日印刷
令和五年九月 二十日発行

第七十五巻 第三号

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	22,740㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	185床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男7名 女21名 計28名
職員定員数	133名(令和5年4月1日現在)
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図





新生・第七十五卷第三号……………目次

表紙：「コスモス(入所者様の畑より)」

……………撮影 医療社会事業専門職 瀬川 将 広

よろしくお願ひします……………作業手…佐々木 義 仁…(2)

ご挨拶……………事務助手…藤 原 玲 奈…(5)

ご挨拶……………医療社会事業専門員…女 鹿 大 輔…(7)

随筆「故郷凱旋」……………斎 藤 照 雄…(9)

|| 新生文芸 ||

詩……………選 者…佐々木 洋 一…(12)

短 歌……………選 者…皆 川 二 郎…(14)

俳 句……………選 者…山 田 桃 晃…(16)

川 柳……………選 者…栗 石 隆 子…(18)

元氣爆発！……………介 護 長 名 生 幹 喜…(20)

観察日記「燕が飛び立つ日②、③」……………遊 佐 三 枝 子…(26)

四コマ漫画「ストレッチ①」「ストレッチ②」……………太 田 凛…(28)

園内日誌・謝寄贈図書

よろしくお願ひします。

作業手 佐々木 義 仁

昨年七月より作業手としてお世話になっております佐々木義仁と申します。

私は登米市迫町の出身です。迫町の中でも迫川を中心に平野が広がり、商業施設の多い佐沼地区で生まれ育ちました。

出身地である登米市についてお話ししたいと思います。登米市は迫川、北上川に挟まれた肥沃な平野部も有しており、古くから米の産地として有名でした。水系の改修や新田の開墾などを行い、現在では耕作物、畜産産出額では県内一位となり東北を代表する食料供給地帯となっております。食材が豊富なことからからスーパ―や飲食店、居酒屋が多くあり、

まで粘り、カントリー側はどんなに遅くなくても投入が終わるまでは帰れないという事態になります。自分が勤務した最初の年はフォークリフト一人に自分を含む下回り五人と人が集まらない年でした。ピーク時に二百トンを超える町域内の米をたった数人で捌くことになり、朝から日が変わるような時間まで外を走り回り、休みも取れず二十日連続勤務と皆心身ともに疲れ果てていました。そんな状況ではありましたが、毎日夜遅くまで一緒に走り回った仲間や、仲良くなった生産者さんからの感謝の言葉など、どれもいい思い出であり自分にとってかけがえのない経験になりました。

私の趣味についてお話しさせていただきます。私は下手の横好きの上に多趣味で色々なことに手を出しています。中でも長いのは音楽・楽器です。幼少期に遊んだゲームの音楽に民族音楽やプロダクションの要素が含まれ

大抵の料理は地元で味わうことが出来るので昼も夜も町は多くの人で賑わっています。

前職では農業関連の仕事についていました。季節ごとの収穫物に合わせるように勤務する施設を転々としていましたが、その中でも思い出深いのはカントリーエレベーターです。カントリーエレベーターとは生産者の共同利用施設の一つであり、収穫した米の乾燥、貯蔵、糲摺り、調整などを行い生産物を製品にする施設です。秋になると圃場で刈った米を青いスタンドバッグに詰め圃場から運び出しているのをよく見かけると思います。そしてカントリーに來た米を受付がリストと照らし合わせ、それをフォークリフト担当に伝え仮置きします。そして品種や生産者ごとにラインを切り替え投入します。原則として生産者は当日収穫した米の搬入、カントリーは当日中の投入という決まりがあります。なので生産者側はできるだけ切り切りが良いところまでと遅く

ていて、それが私の音楽の原体験になりました。国内の音楽が自分には会わず悩んでいた時、音楽好きで変わり者の友人から薦められたことをきっかけに洋楽にはまり、ジャンルや国を越えて聴き漁る中で、いつの間にかギターを手にしていました。当時はまだインターネットも普及しておらず、弾き方や調弦の方法を映像で確認することができないため、雑誌や教則本のわずかなイラストを文章で試行錯誤していました。今では当時ほど熱心に触れることもなくなりましたが、たまに耳に入る流行曲をコピーし、弾き語り用の譜面にしたりとほどほどの熱量で付き合っています。もともと新しい趣味はバイクとキャンプです。昨年中型免許を取ったばかりなのですが、原付に乗っていた当時のどこへでも行ける感覚がよみがえり、思い付きで長距離を走ったり、バイクで運べる最小限の装備でキャンプをしてみたりととても満喫しています。

周りの先輩方にご指導いただきながら、本当にあつという間の一年でした。まだまだ分からないことも多く、ご迷惑おかけするかとはい思いますが、日々励んで参りますので、これからもよろしくお願い致します。



ご挨拶

事務助手 藤原玲奈

私は令和四年九月に国立療養所東北新生園の庶務課に採用になりました。でも実は、委託として令和元年五月より庶務課で勤務しておりました。以前は会計と施設管理の事務助手として働いていましたが、現在は庶務班で事務助手をしております。東北新生園に来て、今年で四年目になりました。

私の出身は、登米市南方町です。南方町はもっこりニラが有名な町です。私の祖父母も農家でニラ生産者の一人です。ニラだけではなく他のさまざまな野菜も栽培しており、スーパーや居酒屋、道の駅に出荷しています。毎日朝早くから夜遅くまで出荷の準備を

しています。そんな野菜のたくさんあるところで育ってきた私は、今でも野菜に困ることはありません。祖父母には感謝ですね。

南方町は訛りや方言がすごいとよく言われます。幼い頃は私もその一人でした。子供ながら全く気にしておらず、それが標準語だと思っ話していました。普段の会話はもちろんのこと作文や日記を書くときもつい方言で書いてしまい直されることが多かったです。高校生になり会話が通じないことと訛っているとわれ改めて気づかされました。少し恥ずかしさもありなるべく控えるようにしました。ですが、大人になった今となつては訛りや方言が誇りに思います。

私は、私生活では一児の母です。かわいい娘も二歳になりました。本当にあつという間です。最近では、おしゃべりが上手になってきて、たくさんしゃべるようになってきました。特に「ママ」「ママ」と言うのがとても

かわいくて仕方ありません。赤ちゃんの頃は手がかからなくて心配になるくらいでしたが、今では好奇心旺盛でとても元気がよく、よく食べていつもニコニコ笑顔の娘です。歩くことが好きで追いかけてくることが好きなので、追いかけるのに必死になるくらいです。逃げ足がとても速いので、私の体力がなくなるときもあります。普段、毎日平日はワンオペ育児なのでとても大変です。少し待たせてしまう時には、アンパンマンを見せて待たせたりと工夫しながらの日々です。とてもママっ子なので少しでも離れるとすぐについてきてくっついていきます。嬉しい反面できないこともあるので大変なときもあります。小さいうちは今しかないので、子供との時間は大切に過ごしています。仕事に家事・育児の両立は大変なことも多いのですが、これからもほどほどに頑張っていきたいと思っています。

これからもよろしくお願いいたします。

ご挨拶

医療社会事業専門員 女鹿 大輔

令和五年六月よりお世話になっております、医療社会事業専門員の女鹿大輔と申します。文章は基本的に自由とのこと、自己紹介をさせていただきます。

私の出身は宮城県仙台市です。仙台高等裁判所の近くに実家がありまして、幼少期は西公園や仙台城大手門跡の近くでよく遊んでいました。大手門跡の近くには沼が二つあるのですが、夏はザリガニ釣りやナマズ釣り、冬は氷の張った沼の上をフィギュアスケートの真似事をして滑ったりしていました。（※現在は冬でも氷が薄くなったのでできません）。余談ですが、その沼が日本フィギュア



スケートの発祥の地だということを成人してから知りました。また、近くに広瀬川が流れていましたので、友達と泳いだりビーバーのように木を積んで、秘密基地を作ったりして遊んでいました。毎日どこかしら怪我をしていたと記憶しています。

なんとなく想像がつくかもしれませんが、親からすると割とヒヤッとする場面の多い子供だったようで、悪いことをしては度々怒られ、家から出されたことも少なくありません。その際は、子供なりに知恵を働かせ、近くの祖父母宅に逃げ込み、被害を訴えるのですが、祖父母宅には曾祖母という恐ろしい人物が居座ってまして、大体のことはお見通しのように、残念なことに実家に強制送還されることしばしばありました。

そんな曾祖母からですが、いつも何かと怒られました。庭を掘れば怒られ、庭に飛んできた鳥に餌をあげれば怒鳴られ、こたつで寝

ていると、「子どものくせにだらだらするな」と罵られました。また、祖父母宅の近くに銭形不動尊という建物があつたのですが、暇だったからか、信仰心があつたのかは知らないですが、曾祖母は毎日欠かさずその建物の掃除をしていたという事で、ある年に仙台市から表彰され、市の担当者より、ひとり豪華な景品を貰っていました。でも実は、半分は私が曾祖母に強制的に手伝わされて達成できたことなのに、私には何も景品が無かつたことを恨みました。と、どうでもいい話をずらずらと書いてしまいました。そんな景品のことを三十年経つても未だに根に持っている私は、本当に小さい男です。

月日が経つのは早いもので、自分が親になつてみますと、いつもガミガミ言っていた親や曾祖母の気持ちがいほど分かるようになってきました。胡散臭いですが、嫌いだつた曾祖母に、あのととき叱ってくれてありがと

う、と感謝の気持ちまで抱くようになりました。また、今まで何も感じなかつた山、川、草花が最近はやけに美しく感じます。夜空の星などまったく興味がなかつたですが、娘に言われてプラネタリウムに行くようになりました。星座も少しずつ覚えるようにしています。テレビゲームはしなくなりました。釣りに行くときは、朝早く出発して娘が起きるころに帰宅しています。年を重ね、自分自身の様々な変化に若干戸惑いはありますが、今後自分なりに楽しく過ごしていければいいかなと思つております。

最後に、東北新生園の職員として、入所者様の生活をしっかり支えられるよう業務にあたりたいと思います。宜しくお願い申し上げます。

随筆

「故郷凱旋」

齋藤 照雄

私は無菌証を見せたくて、友の手を借りて故郷へ。汽車から降りて間もなく茶畑が広がっていた。それを見た友が驚いていた。私はつたないナレーションであれこれと説明していった。まもなく実家へと到着した。

「ただいま。」
「あら、こんなに寒いから来ないのかと思つた。」

両親が口を揃えて言った。私は「いや、無菌証を見せたかつたのと、母の正月の料理を食べたくて。こうして友の手をかりて来たんだよ。」

母が付き添いの友に礼を言った。
友が差し出した名刺をみて、母が「むずかしい字を書くんだね。」と言つた。

「みんなからそう言われています。」
友が言つた。

「うちでは、少し前に雑煮餅を食べたところなんだ。あなたたちもお腹がすいたでしょう。ぜひ雑煮餅をお食べ。」

母が私たちに雑煮餅を勧めてくれた。

「餅二つほど頂きます。」

友と同調したが、母は「いや、もつとお食べよ。」

と餅を勧める。

「我々がいるところでは、もつと餅が小さいんだ。この餅は大きい。だから二つで充分だよ。」

と我々は二つごちそうになった。

「十年ぶりで食べる母の手料理は本当にうま

新生園夏の庭

小さな一輪の花ならば、目立たず、ひっそりと咲いて散る。
たくさんの花の集合体になることで虫を引きつけ、受粉を可能にし、
人の目にも鮮やかに残る。



ペンタス



サンク・エール



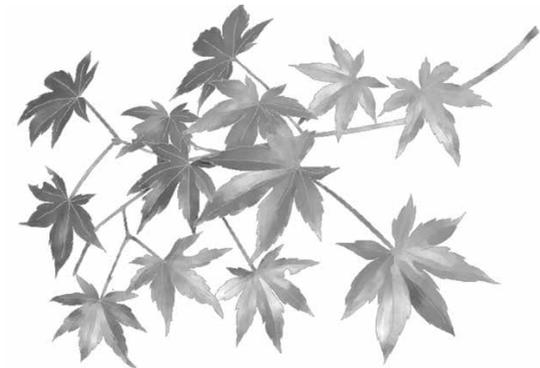
ルドベキア・ヒルタ

蓮の花と言えば、芥川龍之介の『蜘蛛の糸』を思い出す。
地獄に落ちながら、たった一つの小さき命を救ったことで、お釈迦様の
情けを受けながら、他人を思い遣えずに再び落ちて行く。
如何なる時も思い遣りを忘れてはいけないという
教訓である。



(撮影：遊佐三枝子)

いなあ。」
私の言葉に母が目を細めていた。父が
「めずらしい来客があると良いお茶をたてて
飲ませるんだ。」
そう言つて我々にお茶を煎してくれた。それ
を友が二口、三口と舌鼓を打って味わつた。
「俺はお茶が好きで、いろいろなところから
買つてお茶を飲んでいるけど、こんなに美味
いお茶を飲むのは初めてだ。」
と友が言つた。それを聞いた父が喜び、家族
らも喜び顔。
そこに朝日が輝いて、故郷での正月の一日
が始まつた。



詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇



《笑顔の向日葵》

芽 生

雨の日は外に出られない
花の香 風の音
入所者さんの楽しみが一つ減る

雨の日には外に出られない
高い空を見上げることも

【選 評】

《笑顔の向日葵》

芽 生

雨の日の憂鬱な気持ちや入所者さんへの思いが
真っ直ぐに伝わってくる作品です。
作者の前向きで、元気を呼び込むパワーは、作
者の持ち味であり、詩の源泉とも言えます。



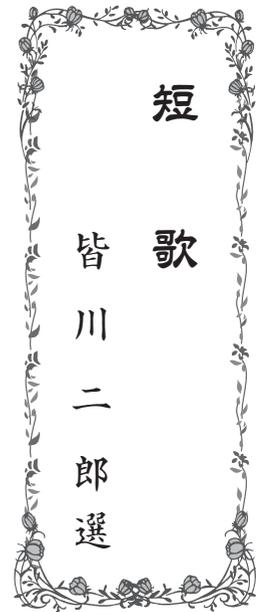
飛ぶ鳥の甲高い鳴き声も室内ま
では聞こえない

雨の日には外を眺めて
滴を恨めしく思う
居室を彩る折り紙の花も
園内を撮影した花の写真も
いつもより色あせて見える

雨の日の入所者さんの楽しみを
増やしてあげたい
室内に綺麗な生花を飾りたい
笑顔がたくさん咲きますように

短歌

皆川二郎選



に願わずにはいられない思いになる。

今野モトイ

入梅の気まぐれ天気暑さにて部屋にいてなお替え忙し

◇ 入 選 ◇

芽 生

青竹に結ぶ短冊吹き流し願い一つに空を見上げる

【選評】

今年の梅雨は、雨上がりの暑さが厳しく体調を維持するのに苦労する毎日であるが、作者はそれを「気まぐれ天気」と表現して実感がある。部屋にいてもなお暑い日が続いているので着替えも大切であろう。

【選評】

七夕様の飾りつけをするために、青竹の吹き流しを作り、その短冊に一つの願いを書き込み、その願いが叶いますように空を見上げている様子がありありと表現されている。作者の願いが叶いますよう

芽 生

通り雨狐の渡る虹の橋かけて嫁入り祝う梅雨晴れ

【選評】

通り雨の去った後に、虹の橋がかげられ、狐の嫁入りを祝うかのように梅雨晴れとなった。童話を見ているような一首であり、作者の感性とそれを見上げる情景が見えて楽しくなってくる一首である。

◇ 佳 作 ◇

芽 生

姿なく鳴き声響く山裾に森の息吹の雉の声あり
宵祭り並ぶ灯りに羽虫飛ぶ焼きそばの盛り湯気立つときに
夏の宵しじま揺るがす大花火大輪の華空に放たる
豊作の感謝を捧げ神楽舞う伝統芸能未来につなぐ



俳句

山田桃晃選



◇入選◇

齋藤照雄

お年玉ばあちゃん孫にゲーム機を

【選評】

ばあちゃんはなきの言葉で懐かしいね。ゲーム機をお年玉にお孫さんに、何のゲーム機だろう想像してみる。楽しみがふくらんでくる。お正月の家族団欒が見えて来る。

墓参り年に数度の家族の輪

芽

生

【選評】

墓参り年に数度と言っているが、五・六回ぐらいいはある。又その年によって回数が異なる。家族が揃うのは元気そのものと思われ羨ましいかぎりですね。

今野モトイ

雨の日に蓮の葉を一句誘われて

【選評】

雨と言ってもざざ降りではないだろう。その雨に誘われて散歩出来たのが蓮の花でなく広々とした葉の中に光る雨魂の輝き楽しさが倍增したのではないかと思われる。

◇佳作◇

齋藤照雄

北帰行迫り伊豆沼ガヤガヤと

念願の千本桜咲きにけり

霊安堂へ行く道夏草刈られおり

いろいろな過程乗り越え稲実る

母さんと栗の実煮てた夢をみる

芽生

慣れぬ下駄浴衣で走る童たち

暮早く日増しに伸びる我の影

夕空に響く蛙の大合唱

暑さ増す蝉の鳴き声増す夕べ

今野モトイ

雨の日は布団にくるまり寝ていたい

梅雨休みへそ曲がりの暑さかな



入梅にかえるの合唱田んぼから
ホーホケキヨどこまで行ったか声ばかり

川柳

雫石隆子選

◇ 入 選 ◇

《天位》

大平尚拓

雨上がりあおの青々透き通る

【選評】

感性の豊かさが光る作品です。中七の措辞に「あおの青々」が読む者の目にも映るようです。豪雨になつたりと雨の被害の多かった今季ですが、大地を洗って透き通る景色が見えてきます。

◇ 佳 作 ◇

斎藤照雄

会うたびに母の黒髪白くなり
歩けます貴方とならばどこまでも
神経痛朝昼晩と私攻め

千 歩

梅雨空にポツリ広がる不安の輪
梅雨明けの浄土の湖面に蓮灯る

大平尚拓

房を取り一つ一つと露あふれ

長沼蓮花

食卓がホームパーティー夏野菜
初盆を迎えし祖父の部屋片す
エアコンがフル稼働です熱帯夜

《地位》

千

歩

夜勤明け勞う母と缶ビール

【選評】

日常の暮らしが見える一句。朝に帰るお勤めを勞う母有り、幸せですね。いい時間を重ねて、親子の絆も深まります。

《人位》

斎藤照雄

いろいろな病に勝って八十年

【選評】

ハンセン氏病から、ここまでの人生に幾つもの困難を切り抜けた照雄さん。中七の措辞にはいろいろな思いが詰まっています。更なるご長寿を目指してくださいね。



元気爆発！

介護長 名生 幹喜

令和五年六月一日快晴、総合診療棟玄関前駐車場、「がんばれ！」「早く！」「わぁーわぁー」と、とても楽しそうな元気のある大きな歓声が沸き上がっていた。

令和五年四月新年度になり一回目の介護長会議があった。その議題の中で、毎年のセンター交流の合同レクリエーションの取り組みについての議事があった。三人の介護長で何を行うか相談をしていて、春は運動会、夏は縁日花火、秋は文化発表と三つの柱を決めていた。昨年新しく完成した総合診療棟玄関前駐車場において、手作りの夏祭り花火大会を開催、入所者に大変好評を頂いていた。

これから始まる久しぶりの運動会を楽しみにしている皆さんの笑顔が溢れていた。

いよいよ始まりだ。開会宣言後、園長先生の挨拶が終わり、プログラムに沿って進んでいき、少しざわつきながらも会場内は、ちよつと緊張感が漂っていた。そして、参加されている入所者の紹介、「○○さん」オー！ドンドン！「○○さん」わぁーと紹介される度に歓声上がる。チーム毎テントに分かれているので直接の交流はないが、元気に参加されていることを知り、同じ時間同じ会場同じ目的でここに居る事が確認でき、安心出来た瞬間ではないかと感じた。

次は、競技前の応援合戦、チーム毎の団結と士気を高めていく。一、二、三の数字だけ書いてあるサイコロを振って順番を決める。三階二階一階の順で、一階三階は学ラン姿の団長で二階は袴姿の団長だ。三階の応援は、「フレーフレー！」とシンプルな掛け声で纏

そこで、合同レクリエーションを園の行事として位置付けることとし、春の合同運動会を開催することになった。本年度より入所者の為のライフサポート室が新設され、ライフサポート室の声掛けで、実行委員会を立ち上げた。そして、企画を詳しく作成して実行委員会を進めていった。

運動会の種目を決めるにあたり、過去に楓会主催で実施していた運動会での種目を思い出し、現在の入所者の皆さんの不自由度と体力具合を検討して四種目とした。また、応援をするという体験もして頂く目的で一種目は職員のリレーを取り入れることにした。そのような内容で運動会開催が実施できるように準備を進め晴天の当日を迎えた。

各センター對抗にしていたので、一階桜寮にちなみチームカラーをピンク、二階は百合寮なのでホワイト、そして、三階は萩寮なのでブルーのユニホームを纏って集合した。こ



各センターの 応援合戦



1階(さくら)



2階(ゆり)



3階(はぎ)



大漁1本釣り



ねらって狙って



どんぶりコッコ

まりのあるものだ。続いて二階、団長の袴姿に対して赤やピンクのスカートにカラフルなポンポンを持ったチアガールが応援に華を添え、団長とのギャップが意外に良い。そして、替え歌の応援もリズムテンポの良いものだ。最後は一階、団長と同じく学ラン姿の副団長が団旗を掲げて凛々しく傍に立っている。応援は、笑いヨガを元にした楽しく気持ち上がる掛け声だ。どのセンターもチーム一丸となり、みんなの気持ちの盛り上がりを感じた。

会場の雰囲気盛り上がり競技開始！「ねらって狙って」は玉入れである。楓会で行っていた不自由者棟の皆さんが参加していたのでスタートの笛が吹かれると、どのチームもアツという間に置かれていた玉が無くなる。入った籠の玉を数えるたびにどよめきが沸き上がっていた。

次の競技は、「どんぶりコッコ」で、どん

ぶりから隣の人のどんぶりにボールを入れていくボール送りだ。「はい！はい！それほれ、早く、まだか、おーやったー！」と入所者の方々より職員が熱量が凄く、楽しさが伝わってきた。入所者と共に盛り上がるのは企画した者としては、とても嬉しいものだ。

三種目「大漁一本釣り」は、マグネット釣竿で得点数のポケットティッシュを、規定時間内に交代して吊り上げる競技であった。皆さん集中し職員の援助もよく、思った以上に吊り上げられており、竿のしなりもあり吊り上げ感がある。「いいぞ！いいぞ！」「つぎ！つぎ！」と声が飛び交いながらも集中していたが、やはり成績が発表されると歓声が上がった。来賓席にいる方々も笑顔で何か隣同士で会話をしていた。

四種目は「出た目で勝負」で、以前は入所者の方がサイコロまで走って行きサイコロを投げて戻り、次の人にタッチをしていく

レー方式の競技だった。今回は、サイコロを順番に回していき、風船に出た目の数だけ空気を入れていき一番早く割れると勝ちだ。風船が大きくなってくると「もう少しだ！まだか」と声が上がってきた。しかし、天気が良く気温が高いせいか風船はドンドン大きく膨らみなかなか割れなかった。見守っていると、ついにバン！と割れ、少ししてバン！またバン！と割れ拍手と歓声が上がった。

最後の種目は職員限定の種目「ゆっくり急いで」であった。ラケットにボールを乗せたラケットリレーで、本来なら運動会の花形であるベストメンバリーリレーが良いのだが、いかんせん職員も歳を取り入所者の皆さんへりハビリ運動が大切と言っている割には運動不足なので本気走りはさせられない、怪我でもして休まれては元も子もないため、ゆっくり急いで走ってもらう競技にした。

スタート前には各テントから選手の名前の

コールが飛び交う、スタートの笛がなり一斉にスタートした。「わードンドン頑張れ！ボール落とすなー早く、いいぞ〜」と、抜きつ抜かれつの好勝負でレースは盛り上がる。実況にも熱が入り、ゴールテープを出し忘れる始末。会場のボルテージも最高潮の熱量になり決着がついた。そして、いよいよ成績発表になるが二チームが同点だった。

進行の私には想定外でどうしたものかと思ったが、出た目で三本勝負が良いとひらめいた。両チームから一人ずつ出て、サイコロを振った。二人目、一勝したチームの采の目六が出た、ここで誰もがこちらのチームは勝利を確信しただろう、勿論私もそう思った瞬間相手側も六が出た。「おー！」会場もどよめく。一勝一敗の互角になり会場はまた熱くなつた。そして、三人目、サイコロを振り順位が決まった。負けたチームは落胆し、優勝を勝ち取ったチームは、「万歳！万歳！」の

大歓声で決着がついた。結果は、優勝二階、準優勝一階、三位三階だった。

今回、園の行事として運動会を開催するにあたり、幹部の方々、他部署の方々、看護課の皆さんの沢山の配慮と協力、そして、笑顔で参加された入所者の皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。そして、大きな歓声、満面の笑顔を見ることができて、とてもうれしく思った。これを機に、このようなエキサイティングな運動会を継続し、他にも生活や心に刺激的なレクリエーションを皆さんと一緒にやっていき、楽しい時間を過ごしたいと思っている。

令和五年六月一日、園内みんなの「元気爆発」した、最高の日になり心に刻まれた。



優勝したメープルケアセンター2階の皆さん



出た目で3本勝負

「燕が飛び立つ日②」

新生園の一面に巣を作り、卵を温めていた燕の雛が孵りました。

まだ小さな灰色の羽毛が泥土の巣からぴよこぴよこと見え隠れして、親鳥が周囲を警戒しながら巣に戻ると、待ち切れない様子で嘴を開けては餌を強請り、我先にと首を伸ばす。雛鳥の成長は早い。土日を経て再び見に行くと、数日の内に雛の頭は黒く、小さな子燕の姿へと変貌している。

まだ自身で身を守れない子燕たちは親鳥に守られ、帰りを待つことしかできない。柔らかな灰色の羽毛が少しずつ抜け落ちて行き、真新しい黒いピカピカの小さな翼となる日は

近いだろう。

それでもまだ飛び方を知らない子燕たちは、今日も母親の姿を見ては、首を伸ばす。

彼らは飛び立ったその日からただ一羽の燕となり、頼るものさえない厳しい野生の中で淘汰される。生き残り、再び巣のあった場所へと戻れた燕だけが次の世代へと命を紡いでいく。

どうか今年もまた、この新生園から皆無事に、雄々しくその翼を広げて飛び立てる日を心待ちにしていきたいと思う。

令和五年五月二十九日

「燕が飛び立つ日③」

いよいよ燕の姿もすっかり大人に近づいてきて、日々体は大きく遅しくなり、手狭となった巣の中で飛び立つための準備運動なのか、

翼を大きく広げては、バタついている。

しかし、まだやはり幼さも垣間見える。嘴を開けて親鳥を待つ雛の頭に名残惜しくも残る灰色の羽毛。可愛らしくも愛おしい。親鳥は雨の日も風の日も、一日たりとも休むこと無く、餌を運び続ける。

見守り続けたスタッフは、いつ飛び立つかと興味津々で待ち望んでいた。しかしながら期待は大きく裏切られ、飛び立つまでは数度の練習や時間が多少なりともかかると思いきや、土日を挟んで出勤してみれば、巣は見事にもぬけの殻・・・。

やられたと残念な気持ちと、無事に皆一羽残らず飛び立ったかと安堵と寂しさが緋い交ぜの複雑な思いである。あんなに毎日見守り続けていたのに、見送ることさえできずに飛び立って行ってしまおうとは、何たる薄情者よと、いささか切ない。

だが今年巣立っていった燕たちが、来年またこの新生園を訪れ、新たに巣を作り飛び立つ日がくる。そうして長い時間の中で繰り返し、人の生活圏に寄り添い、愛らしい姿で、小さな癒やしと幸せを運んできてくれる。幸運の鳥、燕。

また来年を楽しみに季節の巡りをゆるりと感じて一年を過ごせそうです。

令和五年六月十二日



四コマまんが

作・太田 凜

<p>ストレッチ②</p> <p>片方 20秒ずつ</p> <p>イスや台につかまって</p> <p>体を前方へ</p> <p>かかとをつける</p>	<p>ストレッチ①</p> <p>あっ!</p>
<p>伸ばしましょう</p> <p>体をこす</p> <p>重心は下に</p> <p>さらに脚の付け根も</p>	<p>歩いているとき</p> <p>つま先が引っかかることありませんか？</p>
<p>歩けそうですね</p> <p>これでつまずかずに</p>	<p>それは足首のかたさが原因かもしれません</p>
<p>恋愛につまづいたら</p> <p>占いでもやりましょう</p>	<p>そんなときはストレッチをしてみましょう</p>